

# 令和4年度

# 学校自己評価（最終評価）まとめ

# 上田市立川辺小学校

A：達成できた B：概ね達成できた C：やや達成できなかった D：達成できなかった

学校教育目標	重点目標(中期目標)	今年度の重点	総合評価
たくましく かしこい子どもの育成	深く考え取り組む子ども(知) ⇒ かんがえよう 思いやりのある子ども(徳) ⇒ つなげよう 健康でがんばりのきく子ども(体) ⇒ きたえよう	一人ひとりの子どものよさに目を向け、学びを高める授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>「誰一人取り残すことのない、安心感のある学校づくり」に向け、児童一人ひとりに向き合い、短所や長所という見方ではなく、全てはその子の個性と考えながら学習や生活を進めることができた。</li> <li>全職員で共通に理解し、特別の支援・見守りが必要な児童について、その都度情報を更新しながら、支援・見守ることができた。</li> <li>子ども一人ひとりの話をよく聞くよう心掛け、お互いの授業を参観しながら、自身の授業力・教師力をアップデートすることができた。</li> <li>コロナ禍のため、異年齢交流など全校で活動する機会を持つことが少なかった。</li> </ul>

分野	評価項目	評価の観点	評価				最終評価
			A	B	C	D	
教育	学級経営 誰一人取り残すことのない、安心感のある学校づくりを目指して～「予測困難な時代」を、共にたくましく生き抜く子どもたちを育てるために～	どの子に対しても個別最適な学びの方法と学びの場を考え、子どもたちの個性を最大限に引き出し、主体的な学びを支援することができたか。		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>どの授業も個別最適な学びを目指して取り組んだが難しさもあった。UDの視点をもとに、一斉授業の内容や質を見直し、授業の中で児童たちが学びを高め合えるような授業を目指したい。</li> <li>教室で授業が受けられず、保健室でクールダウンしたり、保健室で chromebook を活用して課題をやる児童もいた。無理をせずに、場所を変えることでその子のその時の精一杯の学びであるなら保健室でも学習を支援できた。</li> <li>UD化の視点である「視覚的」「具体的」「肯定的」を意識して取り組んできた。</li> <li>高学年で児童が一人で課題に取り組む学習を取り入れ、評価も大変良かった。多くの子が人を頼りにせず自分で理解しようとする姿があった。今後も個々に学習に取り組むことができる単元を増やしたい。</li> <li>学期が進むにつれて子どもたちそれぞれにあったできる範囲が明確になっていったので、配慮が必要な児童にはその子にあった課題を用意したり、指導の際には視覚的・具体的に提示することを心掛けた。</li> <li>いくつかの選択肢を示すことで、自分の課題を追究したり、自分にあった学びの方法を考えたりする支援することができた。</li> <li>毎日登校することが難しい子にも、学校以外の学びの場を提案したり、学校とつながっていただけるような方法を話し合ったりすることができた。</li> <li>コロナ禍の中、長く休む児童も少なからずいたが、オンラインでの授業や課題の配信など離れていてもつながれる方法を模索、実行できた。また、タブレット端末を利用した調べ学習の機会を作り、自分のペースで活動をする時間を作り出せた。</li> <li>全体が学びやすい工夫や支援は、川辺のUDベシックを参考にしてきた。</li> <li>個別最適な学びを意識したが、一人の学びに応じた支援はなかなか出来ず不十分だった。</li> </ul>
	教育課程 地域と連携した教育課程づくり	地域の素材・人材の参画を図った活動ができたか。			○		<ul style="list-style-type: none"> <li>学区内のスーパー見学や創造館の見学など、今の状況の中で可能な活動を進めることができた。</li> <li>獅子頭を題材に、版画の一版多色刷りに取り組むことができた。獅子舞の様子は、写真でしか見せることができなかったが、子どもたちは意欲的に取り組んだ。</li> <li>地域探検に出かけて、学校の周りを知ることが出来た。</li> <li>歴史館運営の方々などと田植えやしめ縄づくりなどの地域学習を行うことができた。</li> <li>歴史学習では資料館の関係者の皆さんから、地域に根差したお話が聞けた。質問もでき、関係を築けた。</li> </ul>
	chromebookやICT機器の活用	chromebookやICT機器を活用した授業づくりに取り組むことができたか。		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年でもできるICTの活用を心掛け、写真撮影、手書き入力でジャムボードの活用を行った。</li> <li>ICTを活用した授業づくりを意識し、社会の都道府県での活動や、国語のグループ学習などに活用することができた。今後、算数など今まで活用してこなかった教科でも内容によって挑戦していきたい。</li> <li>chromebookを用いて天気の変化(5年)人の体とはたらき(6年)電気の利用(6年)の学習を行った。気象庁のホームページ、体の調べ学習、マイクロビットを用いたプログラミング学習を行うことができた。</li> <li>毎日の活用はしなかったが、国語、社会、図工などを中心に、週に1回以上の活用ができた。</li> <li>書くことに困難のある児童に対し、Chromebookを活用することで、抵抗感を減らして学習することに取り組めた。</li> <li>国語や体育の授業でchromebookを活用する授業を行うことができた。(例)国語の意見文では、ジャムボードを活用し、文章の構成を考えたり、ドキュメントで文章づくりを行ったりすることができた。</li> <li>Chromebookを授業で活用することができた。自分の考えをまとめたり、共有するために有効であることが実感できた。</li> <li>Chromebookを活用した授業を仕組むよう、心がけた。学びを補助するツールとして適当だった。</li> <li>Chromebookを活用してテスト終わりの空き時間は読書やタイピング漢字学習など自分の学習に必要な時間を確保した。</li> <li>ChromebookやICT機器は、使いたいと思っても自身のスキル不足で使えないこともあった。出来ないから使わないのではなく、もっと積極的に活用していくように意識していきたい。</li> <li>ICT機器の活用についても持ち帰り学習や各種アンケートの実施など進めることができた。</li> <li>Chromebookは児童の興味関心のあることを調べたり、復習の計算問題に取り組んだりして利用した。今後も利用していきたい。</li> <li>特別支援学級入級児童がなかよし学級にChromebookを持ってきて、学習に取り組むことが増えてきた。なかよし学級でも教科学習や自立活動でChromebookを利用できるようにしていきたい。</li> <li>専科の使用できるchromebookがないことや教員同士で教え合う時間が十分に確保することができず、自ら積極的に活用することができなかった。</li> </ul>

かんがえよう	最後まで話を聞く	発表者の考えをしっかりと聞き取るために、視線を向け、静かに聞くように指導や支援をすることができたか。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級には、聞くことが得意でない児童もいるため、大事な場면을提示して「今聞くとよ」と声をかけることで情報が児童に伝わるようになってきた。</li> <li>話を聞くときの合い言葉を作り、どの子も心がけることが出来た。</li> <li>話を聞くことが苦手な児童には、教材の見本を準備し、説明を聞かずとも教科書や学習帳、教材見本を見れば一人でも学習が行えるよう段取りを工夫した。じっくりと一人で教材に向き合うこと、つまづいて初めて真剣に見たり聞いたりし始めること、疑問が子どもを後押しすること、転ばぬ先の杖はなくてもよいことなど、子どもたちの取り組み方の変化を知って、自分がいちばん勉強になった。</li> <li>「目で見て」「はっきり」「あたたかく」のUDの観点を取り入れた授業を考えることができた。また授業では「めあて」をしっかりと書き、流れを明示することもできるようになってきた。</li> <li>道徳の時間に当初はなかなか自分の振り返りが書けなかったが、続けることで少しずつ具体的に書けるようになった。</li> <li>週末の日記を通して、経験したことや感じたことを文章にする活動を継続して行った。書く力はついてきているので、苦手な児童が多い読解力を伸ばしたい。</li> <li>自分の考えを理由をつけて話すことが難しいことが多かったが、順序立てて質問したり、話を整理しながら聞いたりすることで、考えをまとめていく支援を心がけた。</li> <li>発言のルールやマナー、学習中のルールが明確にし、子どもたちにもほぼ定着してきている。</li> <li>自分の考えを発言したり、友達の意見と比べたりする活動も増やし、話す、聞く活動も充実してきた。</li> <li>聞く人の姿勢が整ってから、発表するよう指導をした。おへそを話す人に向けようとする児童が増えた。</li> <li>話す要点を黒板に書いたりカードを用いるなど視覚支援も使いながら、話すように心がけた。</li> <li>自分の思いや考えを言いたい気持ちのある児童が多い。言えるような場や、時間を作るようにした。</li> <li>中間報告の段階では、子どもたちのわかったことや気が付いたことなど意見を書く時間を十分確保してあげることができていなかったもので、後期では子ども自身も気づきを書き、発信できるように意識した。そのことで、発言を聞く姿勢もよりよくなっていた。</li> <li>算数では答えだけでなく説明も話すこと、話し合いでは意見だけでなく理由も話すことなどを意識させてきた。</li> <li>コロナ禍で表現活動も制限されてしまっているのが残念だった。</li> </ul>
	自分の考えをもち、書く	わかったこと・気がついたこと・思ったことを書く時間を確保できたか。	○			
	進んで伝え合う(発表・表現)	子どもたちが意見を出し合う時間を確保していたか。	○			
	一人ひとりが追究し、学習したことをふり返る	一人ひとりが見通しを持って追究ができるように、ねらいを明確にした授業を心がけ、学習のふり返りを終末場面に位置づけることができたか。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの学習を見返し、本時では何をどこまで学習するのかははっきりさせて学習に取り組んだ。「今日はよくわかった。」「まだこのところがよくわからない。」と振り返り次時の課題を持つ児童もいた。</li> <li>◎△の簡単なふり返りだが、授業の取り組みについて、その子なりに振り返ることができた。</li> <li>振り返りのアプローチは様々あるので、来年度も引き続き研鑽を積みたい。</li> <li>授業ごとにその時間にやる活動内容をしっかりと板書し、学習課題を提示することにより、児童は明確に見通しをもつことができる。</li> <li>振り返りの時間を設け、丁寧にこなすことにより、次時へ向けて意欲をつなげることができた。</li> <li>学習の振り返りを終末場面に位置付けることを意識して、授業を行った。子どもたちは振り返りが書けるようになってきているが、まだまだ感想のようになってしまうこともあるので学習課題に基づいた振り返りが出来るようにしていきたい。</li> <li>危険な教材や班に1セットしか使えない教材は共同実験になるが、できるだけ一人でじっくり取り組む活動を増やしていきたい。</li> <li>めあてを提示し、それに対応した振り返りを板書することを意識した。</li> <li>個別指導が中心になるため、考える時間はとることができたが、一緒に話し合ったり考えを深めたりすることをもっとできるとよかった。</li> <li>ふり返りの時間が確保できなかったため、授業にゆとりを持って臨みたい。</li> <li>真面目に取り組んだり、集中して取り組んだりする姿勢は出来ているが、個々が自信を持ち解決できているかという課題が残った。個人差等、現状をどのように対応していくか次年度の課題として取り組みたい。</li> </ul>
つなげよう	心をこめた明るく元気なあいさつ	日常的な声かけや児童会活動により、あいさつのよさを自覚させながら、積極的にあいさつをしようとするよう働きかけたか。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、教室に入る時、通勤時など声をかけ、挨拶が交わらせる子どもたちは増えた。</li> <li>あいさつは先生や友だちより先に挨拶することを意識し楽しみながら取り組んだ。</li> <li>朝教室に入ってきた児童が進んであいさつをする姿が見られるようになった。</li> <li>教師の方から挨拶し、児童から挨拶ができた時には児童をほめるように心がけた。</li> <li>自分から積極的に挨拶できる姿を望むが、他者から挨拶された時に返答できる姿もしっかり評価したい。</li> <li>道徳の授業で、あいさつをテーマとした授業では、挨拶の大切さについて確認することができた。教室では、比較的多くの児童が挨拶をしていたと感じるが、廊下ですれ違った児童からは、挨拶が返ってこないことも多い。</li> <li>校内と同様に、地域でも気持ちのよいあいさつができるようにしたい。</li> <li>日常的に朝や帰りのあいさつを心掛けるよう指導をしたが、子ども自身がよりあいさつの重要性に気付けるような指導を考えていきたい。</li> <li>あいさつについて話題にしたり、クラスで取り組みをしたりしてみたが、自発的な自然なあいさつにはなかなか結びつかなかった。</li> </ul>
	ひびく歌声	全校音楽、学年音楽、音楽会で歌う時間を設け、子どもたちが共に声を合わせて歌うよさや楽しさを感じるようにしたか。	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽学習発表会が開催できたことで、児童が目標をもって積極的に音楽学習に取り組むことができた。</li> <li>聴き合いの場を得ることができ、友の音楽表現の良さに触れ、感動する機会を持つことができたことは、児童にとって、これ以上ない鑑賞学習、情操教育の場となった。</li> <li>合唱班にリードしてもらい、歌声が響きつつある。</li> <li>合唱班の活動が全校に歌の楽しさ、音楽のすばらしさを語り掛けてくれているように感じられた。</li> <li>音楽学習発表会では子どもたちの歌う姿を撮影し、振り返ることで相手を意識して歌うことが出来た。</li> <li>感染レベルの関係もあり、教室で歌うこともできなかった。しかし、音楽学習発表会が予定通り実施でき、学年で歌声を会わせる経験ができた。</li> <li>コロナ禍で、歌うことが制限されてしまっていることが残念ではあるが、日々声を響かせることによって育つ力や豊かな感性を今後も大切にしていきたい。</li> <li>歌声が響く学校は絶対素敵だ学校だと思う。児童会や生徒指導とも連携しつつ進めていきたい。</li> <li>音楽会に向けて、クラスや学年で歌を歌う機会は多く作ることが出来たが、感染予防もあり、そのほかの時間には歌を歌う機会をあまり作ることが出来なかった。子どもたちは歌を歌うことは好きなので、来年度は多くの機会を取り入れられるとよい。</li> </ul>

	相手の気持ちに近づいた考えや 思いやりのある行動	自分や友達のよさを大切にするよ う、日常の様々な事象をもとに、子 どもたちに考え行動するよう働き かけたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会では、多くの児童が友達の良いところや頑張っているところを発表する姿が見られた。</li> <li>・帰りの会に「ししまいタイム」として互いの良い姿を伝える時間を確保することができた。</li> <li>・帰りの会に「ししまいタイム」として互いの良い姿を伝える時間を確保していた。以前は決まった子どもからしか発言がなかったが、だんだんと色々な「よい姿」が出てくるようになり、周りの「よい姿」に心を寄せ子どもたちの姿が増えていった。</li> <li>・大縄跳びクラスマッチでは、勝敗にこだわりがちな子どもたちの中で、友達同士で支えあいうれしかった。</li> <li>・大縄跳びを作文に書き伝え合う場面があった。</li> <li>・良い姿をクラス全体で認め、広げるような声かけをしてきた。友達とのトラブルについては、子どもたちの気持ちを引き出し、どうしたかったのか、どうしたいのか具体的に話させ、自分の言葉で語らせることを行った。できたことを認め、褒めるように心がけて指導することができた。</li> <li>・言葉遣いや友だち同士の遊び方などを見て、気になる言動は注意し、優しい行いは、すぐに褒めるように心がけた。</li> <li>・師弟同行、教師が児童たちのよき模範となるように、日々人権感覚を正しくもち更新し、児童と接することが大事であると感じることができた。今後も継続していきたい。</li> <li>・長所や短所はなく、個性なのだという考え方を共有するよう努めることができた。</li> <li>・子どもたち一人ひとりの個性を認めるような声かけや接し方を心がけ、子どもたちが自分で考えられるような声かけを行ってきた。一方的で押しつけるような指導は避け、子どもと共に学び続けるような姿勢を今後も続けたい。</li> <li>・なかなか友達のよさに気づけない子もいるが、自分のよさでさえ見えていない子もいるように思う。まずは、自分自身を認めること、大切にできることを考えて子どもたちと接するようしてきた。これからも続けていきたい。</li> <li>・お互いを思いやるということをいつも念頭に置いて支援してきた。少しずつでも感じてもらえればと思う。</li> <li>・友達との関係から保健室を利用する児童もいたが、相手への自分の気持ちを聞きながら、相手を傷つける方法でなく、共に窮屈にならずに生活できることを目指して児童と話をするように努められた。</li> <li>・相手の気持ちに気づくことができるように、その場その時に声をかけるようにした。しかし、こちらの意図が伝わらず、一方的に怒られてしまったと感じる児童もいたため、教師側の言葉を選んで伝えていくようにしたい。</li> </ul>
きょう	外で元気に体を動かす	外へ出て元気に体を動かすよう、遊 び時間や朝活動などで運動時間を 確保しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘い合って、外で遊ぶ姿が多い。</li> <li>・外に出る子と中にいる子でわかれてしまった。</li> <li>・外遊びが好きの子が多く、冬でもよく校庭で遊んでいた。男女問わず、仲良く遊ぶことが出来ていた。</li> <li>・外遊びにでる子ども達が精いっぱい体を動かせるように、安心安全に遊べるように支援した。</li> <li>・子どもたちと一緒に校庭で遊んだ。</li> <li>・昼休みなど子どもと一緒に外に出て遊ぶことができたのも大きな収穫であると思う。来年度も続けつつ、築き上げた関係性をもとに、語り合いによる振り返りが行えるようにしたい。</li> </ul>
	食育を通して、給食をバランス良 く味わって食べる	食育を通し、自校給食のよさや感謝 を持ち、子どもたちがそれぞれの食 べられる量の中でバランス良く味わ って食べるよう工夫したか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・作る人の顔が見える本校は、感謝したり頑張って食べようとしていたりなど、よい姿につながっている。</li> <li>・残す子はたくさん残し、食べる子はたくさん食べる。</li> <li>・給食が楽しみになるよう毎日の献立を提示した。</li> <li>・好き嫌いははっきりしていたり、小食だったりしたが、量を加減したり周りの友達同士で声を掛け合ったりしてクラス全体で食べられるようになった。</li> </ul>
	規則正しい生活	教師も子どもも授業開始や授業の終 了時刻などを守るようにしたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室移動の時間も考え、活動が必ずチャイムの前に終わるよう徹底した。</li> <li>・時間を守って生活できるように毎日行ってきたが、難しい日もあった。三学期に入ってだいぶ落ち着いてきているように思う。</li> <li>・子どもも教師も時間厳守で生活できた。</li> <li>・1年生の1学期までは早目の給食でもよいが、2学年以上は4時間目でも原則、45分間の学習習慣を大切にしたい。</li> <li>・一時間45分の授業をしっかりと創っていきたい</li> </ul>
	共に鍛える	全校体育、運動会を通して、なかま との共同の喜びや達成感を得させる ことができたか。(「自己評価カード」 で振り返りを行う。)	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大縄跳びは、クラスで協力し、目標を目指して頑張ることが出来た。</li> <li>・3学期のクラスマッチでクラス全体が一体感を持って取り組めた。</li> </ul>
	基礎学力の定着	スモールステップ学習やドリル学習 の継続など、基礎事項の定着を行っ ていたか。	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数を中心にその時間に関係している既習事項を授業の最初に確認したり、児童の理解の状況に合わせてスモールステップの学習を取り入れることができた。</li> <li>・毎回の算数や国語の授業で漢字ドリルや算数の復習の時間を設け、既習事項の確認をしてきた。</li> <li>・算数の授業では、授業で進んだ部分を、問題集で補充するというルーティンを作り、ほとんどの時間で練習問題に取り組むことができた。</li> <li>・家庭学習だけでなく、授業や朝のドリルでも計算ドリルや漢字スキル等を活用することができた。</li> <li>・なかよし学級の児童に対して、多すぎない取りかかの手立てを考えて課題を提示してきた。このことで基礎的な学力が定着してきたことを感じてきた。</li> <li>・個々の児童の実態を踏まえて、教材を用意したり、学習量を調整したりした。「できた」と感じて終わることができるよう心がけた。</li> <li>・算数を中心にその時間に関係している既習事項を授業の最初に確認したり、児童の理解の状況に合わせてスモールステップの学習を取り入れることができた。</li> <li>・同じ内容の学習をクイズ形式にして、授業の初めに毎回行うことで、知識の定着を試み成果を感じた。</li> <li>・コロナ禍で様々な活動が制限されている中だからこそ、今は基礎学力の定着には十分な時間をかけていくようにしたい。</li> <li>・家庭での学習習慣がついた子どもたちも多くいたが、学年が上がるにつれて理解力の差や処理速度の差などで取り組みの個人差が大きくなることを感じた。</li> </ul>

生徒指導	安心・安全な学校生活	学校のきまりやマナーを守って生活するように働きかけたか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車を使える初めての学年ということで、口酸っぱく交通マナーを扱い、ここまで交通事故なく生活することができた。</li> <li>・廊下を走ってしまう児童がいた。3学期では少し改善された。</li> <li>・学級でも廊下歩行について、危険な箇所や危険な行動について説明しているが、20分休みの前後に走る姿が多く見られる。全員に意識させるためにはさらに働きかける必要を感じた。</li> <li>・弱視等の理由で歩行支援が必要な児童がいる。廊下歩行について各学級で引き続き啓発していきたい。</li> <li>・協調して生活しようとする子どもたちが多いが、我を通そうとし、友達との関係が築けない場面もあった。その都度、社会性を身に着ける学習の場として指導を行った。</li> </ul>
	心を込めた掃除	「もくもくタイム」を通して、心を込めた掃除を行い、学校や教室の環境整備ができたか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掃除のやり方をカードに記し、取り組むことが出来た。</li> <li>・保健室掃除では、時間いっぱい隅々まで掃除することを指導してきた。3学期には保健室だけでなく、廊下掃除の児童にも声掛けし、集中して取り組める姿が増えた。</li> <li>・必ず掃除の始めと終わりに児童を集合させ挨拶を行ったり、音楽室掃除のルールを徹底したりして、緊張感を持って清掃に取り組めるよう指導した。</li> <li>・時間いっぱい清掃をする姿が多く見られた。一方、まだ話をしてしまう様子もあるので、静かに清掃が出来るよう声を掛けていきたい。</li> <li>・概ねよいが、学年やクラスによって指導に差があるように感じる。</li> <li>・トイレ掃除で何も言わなくても自分で気づいて便器周りの汚れをふいたり、落ち葉はきの時、一度にたくさん集めてあっという間にきれいにしたことがあった。</li> <li>・そうじをする意味について子どもたちと話す機会を設けたが、清掃時に友達と話してしまう児童が一定数残ってしまっていた。そうじをしているときの努力している姿やそれによってきれいになった場所のことをより認められるような声掛けを大切にしたいと感じた。</li> <li>・時間いっぱい清掃をする姿が多く見られた。一方、まだ話をしてしまう様子もあるので、静かに清掃が出来るよう声を掛けていきたい。</li> <li>・集中して取り組んだ結果としてのもくもくタイム（無言清掃）を全校で目指していきたい。</li> <li>・昼休み後に黙想の時間を設け、心を落ち着かせたが、清掃中は、私語をする児童が多い。</li> </ul>
学校運営	保護者との連携	家庭学習の充実	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期は、自主学習の取り組みも進められた。</li> <li>・家庭学習を1ヶ月間続けられた子を表彰するなど、頑張りが認められるような工夫を意識した。それにより、提出物に一生懸命取り組む児童が増えた。</li> <li>・保護者の悩みなどを聞き、学校生活での様子や現在の児童の状態と照らし合わせて、これからの支援の方向を助言することができたと思う。</li> <li>・家庭学習の定着を図ってきた。習慣化している児童がほとんどだが、習慣付いていない児童もおり、家庭と連携しながら家庭学習の習慣化や学習に集中して取り組める時間を伸ばしていくこと等を進めていきたい。</li> </ul>
	PTAやボランティアとの連携	学校はPTAやボランティアとの連携を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長野大や信州大学の学生ボランティアが有効的に機能し、特別支援学級児童の支援や心の相談室を利用している児童の支援をお願いすることができた。学生ボランティアの支援で原級での学習に取り組める時間も増やすことができた。</li> <li>・長野大、信州大の学生ボランティアの方にたくさん入っていただくことができた。</li> <li>・学級懇談会での人権教育やPTA風船飛ばし等、PTA役員だけではなく多くのPTA会員（保護者）の方に協力して頂くことができ、行事をスムーズに行うことができとてもありがたかった。</li> <li>・PTA会員の負担軽減やコロナ禍で見えてきた新たなPTA活動の方向性を考慮しながら、行事や会議のあり方、精選について検討していかれると良い。</li> </ul>
職員研修	児童理解・非違行為防止研修	児童理解・非違行為防止等の研修を行い、自己研鑽に努めたか。	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初任者研修や先生方の授業を参観させていただく機会が多くあり、とても参考になった。今後は、学んだことを実践に活かしていきたい。</li> <li>・職員会で今以上に児童理解の時間をとれるようにしたい。</li> <li>・児童理解に関する共有がこまめにあり、ありがたい。</li> <li>・児童理解について、自主的に学ぶように努めた。</li> <li>・児童理解のための情報交換は日々行っているが、そこから先に進まないことも多い。研修を通して様々なアプローチを学び、より深く児童理解に努めたい。</li> <li>・児童理解のために、家庭との連携を密にして、子どもたちと遊んだり話したりすることを大切にしたい。</li> <li>・非違行為防止研修では、過去に起きてしまった非違行為から学だけではなく、教師になった理由や教師としてのやり甲斐などを語り合うことを通し、教師の仕事の楽しさを改めて感じる時間を持つことができた。</li> </ul>